



第48回地球大学アドバンス

2012.1.23 (月)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ ⑧

感染症と文明—共生への道

ゲスト

山本 太郎 氏

長崎大学医学部・熱帯医学研究所教授



企画・司会

竹村 真一

京都造形芸術大学 教授 Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー

また新型インフルエンザの流行が心配な季節がやってきました

100年近く前の新型インフルエンザ「スペイン風邪」は、世界中で数千万人の死者を出し、第一次大戦の終結を早めました
しかし現在は人口も増えて都市も高密度化し(満員電車という高効率の感染カプセルもあります!)、さらに数時間で感染者を地球のあちこちに運ぶ航空機ネットワークにより、地球規模のパンデミック(感染爆発)のリスクが100年前とは比較にならないほど高まっています
また感染が復活しつつある結核、地球温暖化とともに感染域が日本にも近づきつつあるデング熱、あるいはエイズなども含め、感染症対策は人類社会にとって最重要のリスクマネジメント課題の一つと言えるでしょう

では、その究極の対策は?近代医学は「病原菌の撲滅」と衛生環境の向上に邁進してきましたが、名著「感染症と文明」(岩波新書)の著者・山本太郎教授は、ウィルスや病原体の「撲滅・根絶」がその解ではないと説きます
そこで展開されるのは、地球環境(生態系)と人間社会と病原体をトータルな「共生系」として捉え、その共生のバランスを探ろうというホスト近代の新しい医学思想。そして、ヒトへの適応過程にある(=次第に致死的な病気を発症しなくなり人類と共生しつつある)病原体の存在は、新たな病原体に対する「防波堤」の役割も果たす——従ってその「根絶」「消滅」は人類の防波堤の廃棄ともなると
思えば人間も、人間だけで生きているわけではない。我々は腸内や皮膚や遺伝子のなかの多様な微生物との共生系であり、地球生態系とのつながりのなかの動的平衡(異種間コミュニケーションの系)として存在しています。そんな人類にふさわしい新たな医学・健康思想を、文明史的な観点から感染症を研究されてきた山本教授に伺います。あわせて新型インフルエンザなどの感染症対策について、企業の取組みも紹介します。

開催概要

日時: 2012年1月23日(月曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・司会: 竹村真一

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.htm>

定員: 50名(先着順: 定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要です。以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: 2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)

■お問合せ先■ 大丸有環境共生型まちづくり推進協会 事務局(新丸ビル10階) TEL:03-6266-9400(代) FAX:03-6266-9401 ウェブサイト <http://ecozeria.jp/>

主催・運営: 大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)

*丸の内地球環境倶楽部は、大手町・丸の内・有楽町地区において環境・CSR活動の推進や技術開発等に携わる実務者のコミュニティ作りを目的とした緩やかな会員組織です。

協賛: 株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、戸田建設株式会社

企画・運営: Earth Literacy Program